

2018年度歴史地震研究会 第4回幹事会議事録

場所:地震予知総合研究振興会小会議室

日時:2019年4月18日(木) 17:00~19:30

出席者:松浦(会長),堀川(副会長),諸井(財政),馬場(行事・skype),加納(広報),行谷(編集出版),中村(監査),植竹(監査),大邑(総務)書記

1. 2019年大会の準備状況について(行事)

【資料1】2019年歴史地震研究会(徳島大会)準備状況

【資料2】2019年度歴史地震研究会(徳島大会)予算

- ✓ 行事委員メンバー(地元・プログラム編成),開催日,日程,会場について確認
- ✓ 徳島大学環境防災研究センターの後援は来月における見込み
- ✓ 公開講演会タイトルは『過去の南海地震に学び,次の南海トラフ巨大地震に備える』で決定
- ✓ チラシの作成,広報は後援などが決定した段階で5月末完成をめざす
- ✓ 阿波おどり(30人)の実施が確定.踊り手の駐車場,支払い方法について確認
- ✓ 巡検はほぼ準備完了,巡検代は4,000円に設定することで決定(去年は5,000円)
- ✓ 参加費(会員・非会員)は確定
- ✓ 懇親会はゲスト,功績賞受賞者(1名)は招待扱いになるので考慮
- ✓ 発表申込締切が5月末→6月初旬の次回幹事会までにプログラムを組みプログラムを確認,地震学会のニュースレター締切(6月10日)に間に合わせる

2. 入退会者の承認(財政)

【資料3】歴史地震研究会入退会者(2018年12月21日~2019年4月18日)

① 入退会,所属変更について

新入会員4名(佐藤氏,坂井氏,牧山氏,栗本氏) 退会者2名(岩田氏,清水氏)

その他(所属・連絡先変更)3名(山村氏,片桐氏,大邑氏)

現会員数314名 ただし2018年度末退会4名予定なので310名 増減なし

→入退会者について承認 会誌最新号を送付しメンバーリングリストに追加

幹事会後(4/23)に1名入会申請があったが,次回6月幹事会での入会承認を待つと徳島大会の発表申し込みができないため,申込みは会員同様とすることをメール審議にて決定

② 会費の納入状況について

今年度会費納入者210名,未納入104名(実質会員は200人?) 督促のメールを送る予定

- ✓ 「何年払わないと退会」といった決まりはない
- ✓ 以前督促をしたはずでそのファイルが存在する.会誌を送ってない人のリストもある
→堀川副会長が確認

③ 会費自動振替について

- ✓ 自動振替にすれば郵便振り込みの手間がかからないが会が手数料を払う必要あり
- ✓ 2・3年未納であれば自動退会(復帰に関しても)とするなどの会則改定が必要
- ✓ 会則を変えるのであれば次回の総会資料に掲載する必要あり

振込の省力化,会則の変更については次回の幹事会(6月)の議題とし,会則については総務と副会長で他の学会の会則なども参照して資料を用意

3. 「歴史地震」の編集について（編集出版）

【資料4】歴史地震の編集について

① 編集状況、印刷のスケジュール

- ✓ 総ページ数は前号 290p に対し、今号 260p 程度の予定
- ✓ 今号論説は 9 本、資料は 6 本に配布資料修正
- ✓ 論文一覧は別紙 1 「歴史地震 34 号受理（しそうな）原稿一覧」参照
- ✓ 7 月 1 日に入稿、5 日に初校正出し、26 日出荷の予定
- ✓ 例年、見積書で決済。見積書を前田印刷に作成してもらい財政に送って、請求書来てから支払
- ✓ 見積書の中に前年の過払い分を反映
- ✓ 著者校正は 1 回のみ実施（大幅な修正は認めない）
- ✓ 前田印刷入稿後は編集委員のみで校正

② 「報告」カテゴリで投稿された論文について

- ✓ 現在、報告には査読がない状態。4 ページの制限はあるが自由に載せることが可能
- ✓ 編集者はよほどのことが無い限り心理的にリジェクトしにくい
- ✓ 投稿されたものをすべて掲載するのも難しい
- ✓ 報告をすべて依頼原稿にできないか、という意見と自由に投稿できる「報告」を残すべきという意見がある
- ✓ 誹謗中傷にあたる可能性のある原稿（あるいは内容が正しくないもの）も現状では仕組み上第三者のチェックなしに掲載されてしまう
→編集出版委員会の権限で査読のある「資料」などにまわす、を提案する等の処理ができる？
- ✓ 投稿規定に誹謗中傷を禁ずるとしても、何が誹謗中傷かはできるだけ客観的に判断しなければならない
- ✓ 内容によって「査読が必要」と編集出版委員会から著者に伝える方向でどうか

編集規定の変更などで対応するのではなく、編集出版委員会の判断でカテゴリを変えるか否か（査読を行うべきか）を判断することで決定

③ 16 号以前の Web 公開について

- ✓ 16 号以前のものについて著作権（地震研）は解決済みだが、掲載図についての著作権上の問題がある
- 国会図書館デジタルアーカイブのデジタル化資料送信サービスで 16 号以下が閲覧できる（国会図書館のサービスを利用して閲覧可能な旨ホームページにも記載）

4. ホームページ、問い合わせフォーム、メールアドレスについて（広報）

【資料5】（広報担当資料）

① 問い合わせフォーム入退会申請のあり方について

- ✓ 入会フォーム作成については入会数も多くないことから作成せず現状のまま変更なし
- ✓ 入退会申請メールは財政が担当なので現状のまま変更なし

② 会の代表メールアドレスについて

- ✓ 問い合わせ用のメールアドレスを作成することに決定（宛先は広報、副会長、総務）

③ 広報活動およびホームページの更新と新ホームページについて

- ✓ ホームページ更新（徳島大会の第 2 報まで掲載）

- ✓ 地震学会ニュースレター，地震学会，JpGU ホームページに行事予定投稿
- ✓ Musha へ新規登録，新ホームページ案を作成

④ 今後の作業

- ✓ 関連学会への案内 郵便で案内している学会について大会の内容について財政に依頼し郵送
- ✓ ホームページの更新作業 (flash 撤去, 歴代功績賞, 国会図書館について追加, 研究会の沿革?)
→初期の会誌については予稿集の性格を持つものだったなど経緯を書いておくと良いのでは
- ✓ 画像などもホームページに組み込みたい

更新作業を順次進めることを了承. 新ホームページへの移行時期は広報のタイミングで行う. 公開前に幹事会メンバーなどでチェックもおこなう.

5. 2020 年大会の開催地について (総務)

【資料 6】 第 37 回歴史地震研究会大会開催のご提案

- ✓ 2020 年 9 月 19 日～22 日の連休中 4 日間に伊賀上野での開催を提案
- ✓ 会場は仮予約済，講演者，巡検先についても候補案あり
- ✓ 地元実行委員は，盆野氏，木下氏. プラスして近隣の会員 (研究者) にアドバイザー就任をお願いしたい →加納広報委員長が行事委員として加わる方向で調整
- ✓ 連動企画で展示も行う計画 (ただし展示会の図録は研究会とは別で企画)
伊賀大会を開催する方向で準備することに決定

6. 2019 年功績賞について (会長)

2019 年功績賞を会員 1 名に贈呈することを本幹事会前に開催した選考委員会で決定
→功績賞の案内は会長から行うことを確認

7. その他

① 徳島大会総会資料の準備について

- ✓ 総会資料は 7 月末に締めて 8 月前半作成. 2 週間ほど掲載
- ✓ 財政で決算と予算をつくり監査を通して，総務が印刷して持参

② 印鑑の使用と管理者について

印鑑の管理先などを議論したが，これまで通り財政が管理し，必要に応じて文書などへの押印・郵送などを行うことを確認

③ 2021 年大会について

- ✓ 2021 年渡島大島 (案) 北大西村氏に連絡し打診

○次回幹事会は 6 月 7 日開催の予定

以上